

ソバ「会津のかおり」における容積重向上のための安定生産技術

新田靖晃・真部 武*・野田正浩**

(福島県農業総合センター会津地域研究所・*福島県会津農林事務所・**福島県農業総合センター)

Stable cultivation technique for increasing grain volume-weight of buckwheat “Aizu no kaori”

Yasuteru NITTA, Takeshi MANABE* and Masahiro NODA**

(Aizu Research Centre, Fukushima Agricultural Technology Centre・

*Aizu District Agriculture and Forestry Office・**Fukushima Agricultural Technology Centre)

1 はじめに

福島県の主力品種で会津地域を中心に作付けされているソバ「会津のかおり」について、2015年産から適用された改正農産物検査規格に対応するための栽培方法を検討した。新たな検査基準が外觀形質重視から子実の充実度の指標となる容積重重視に改正されたことで、これまで未熟粒として下位等級にされていた早期収穫(早刈り)についての適否を検討して、その適応性を確認した。また、容積重の向上を図るための耕種法を検討して、有効な播種時期を確認した。

2 試験方法

試験期間は2016～2018年の3か年で、早期収穫(早刈り)の適応性確認は2016年、容積重の向上を図る耕種法の検討は2017、2018年に実施した。試験場所は福島県農業総合センター会津地研究所内普通畑、耕種概要は表1のとおりである。

3 試験結果及び考察

(1) 早期収穫(早刈り)

会津地域における通常の収穫時期は、開花盛期40日後(10月中旬)以降で、これより早い開花盛期20日後、30日後に収穫して、収量と容積重を調査した。栽培方法は、会津地域における一般的な耕種法とし、栽培管理上から播種様式を条播とした。

開花盛期20日後(黒化率57～66%)と、開花盛期30日後(同86～88%)に収穫した各収量は、開花盛期40日後に比べて、施肥レベルに関わらず大きな減収はみられなかった(6.4～7.0kg/a、図1)。また、容積重も同等以上であった(607～636g/L、図2)。

(2) 容積重の向上を図る耕種法

播種時期、窒素施肥法(基肥・追肥の違い及び施用量)、播種様式の条件をかえて(表2)、容積重を調査した。

会津地域における播種適期である8月上旬～中旬において、8月上旬播種と8月中旬播種に生育量や容積重に大きな違いはみられなかった(600～632g/L、図3)、しかし、2017年の株当たり子実重では、8月上旬播種が8月中旬播種より優る傾向もみられることから(図4)、会津地域では、8月上旬がより安定収量を期待できる播種期である。

窒素施肥法の違い、栽培様式の違いによる容積重の差は判然としなかった。

4 まとめ

(1) 早期収穫(早刈り)

早期収穫(早刈り)は、通常の収穫時期と同等の収量と容積重が確保された。また、ルチン含量は黒化率が50～100%までは数値が上がるにつれて漸減する傾向があり¹⁾、その利点が確認されている。「会津のかおり」は、黒化率70～80%を収穫適期の目安としているが、会津地域では黒化率100%以降で収穫が行われ刈遅れの傾向にある。早期収穫(早刈り)の適応性が確認できたことから、刈遅れの一つの対策として有効であると考えられる。

(2) 容積重向上の耕種法

会津地域の秋ソバ生産は、8月中旬播種に比べ、8月上旬播種することで容積重の向上が図られたが、窒素施肥法、播種様式の違いによる容積重の向上は判然としなかった。また、新たな検査基準では、いずれも2等級であった。1等級を確保するためには、さらに土壌条件等の検討が必要である。

引用文献

1) 鈴木哲, 小野和広, 菊地伸広, 小野拓朗, 渡部 隆.

2012. 収穫時期、乾燥調製・保存条件がソバ「会津のかおり」の品質に及ぼす影響. 福島県農業総合センター研究報告4:65-70.

表1 耕種概要

2016年	
播種日	8月4日
播種量	0.3kg/a
施肥量	少肥区N:0.2-P ₂ O ₅ :0.4-K ₂ O:0.4
(kg/a)	多肥区N:0.6-P ₂ O ₅ :0.4-K ₂ O:0.4
播種様式	条播(条間70cm)
区の構成	1区35m ² 2反復
2017, 2018年	
播種日	2017年8月3日, 8月10日
	2018年8月1日, 8月10日
播種量	0.3kg/a
施肥量	基肥N:0.3~0.1*-P ₂ O ₅ :0.4-K ₂ O:0.4
(kg/a)	追肥N:0~0.2*
播種様式	2017年条播, 密条播(条間30cm)
	2018年密条播
区の構成	2017年条播1区35m ² , 密条播1区27m ² 各3反復
	2018年1区35m ² 3反復

*基肥N:0.3~0.1, 追肥N:0~0.2の詳細は表2による

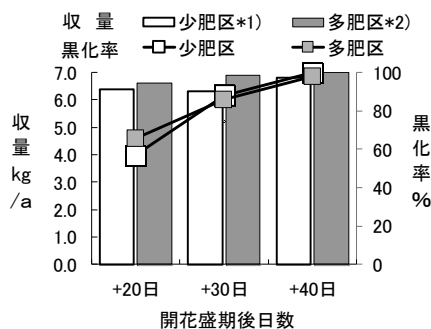


図1 収穫時期と収量、黒化率の推移(2016年)

*1) 総窒素量0.2kg *2) 同左0.6kg/10a
調査方法) 脱穀・風選後、丸目篩4.2~5.5mmで調製

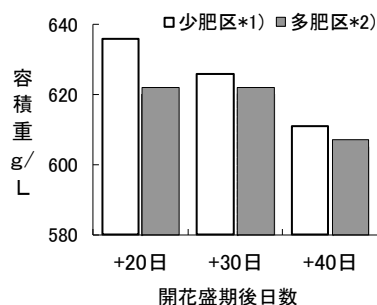


図2 収穫時期と容積重の推移(2016年)

*1)、2)、調査方法)は、図1に同じ

表2 区の構成(2017, 2018年)

播種時期の違い	8月上旬, 8月中旬	
窒素施肥法の違い	基肥	追肥*
(kg/a)	0.3	-
	0.2	0.1
	0.1	0.2
	*着蕾期	
播種様式の違い	条播(条間70cm), 密条播(条間30cm)	

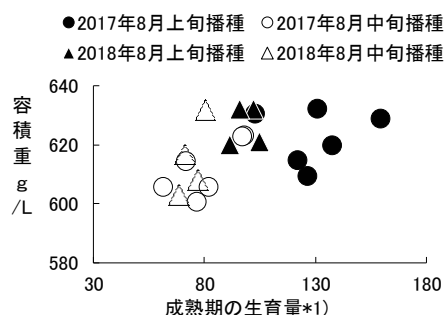


図3 成熟期の生育量と容積重との関係

*1) 草丈(cm) × 茎葉重(風乾重g/本)
各播種日は、図4に同じ
調査方法) 脱穀・風選後、丸目篩4.2~5.5mmで調製
8月上旬播種、8月中旬播種とも、開花盛期
40日以後の黒化率100%で収穫し調査(収
穫日2017年10月25日、2018年10月17日)

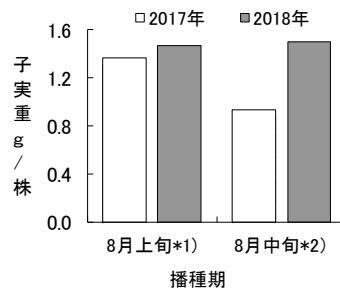


図4 同一播種期平均子実重

各総施肥窒素量0.3kg/a

*1) 2017年8月3日、2018年8月1日

*2) 2017年8月10日、2018年8月10日

調査方法) 図3に同じ